学校だより

NO. 194
平成27年６月29日発行

歓迎　新入学生

入　学　式

入　学　式

新入生ガイダンス

目　次

入学式告辞 …… 2
１年担任からのメッセージ …… 3
就任にあたって …… 5
三主事・専攻科長からのメッセージ …… 6
国際交流行事紹介 …… 10
総合学生支援センター紹介 …… 11
学習支援室紹介 …… 12
キャリア教育支援室紹介 …… 12
統　計
平成26年度卒業生の進路状況 …… 13
学生相談室紹介 …… 14
学科紹介 …… 15
春潮寮通信 …… 17
学校ニュース
二輪車実技講習会 …… 18
新入生ガイダンス …… 18
新入生歓迎会 …… 19
構内清掃 …… 19
安全運転講習会 …… 19
第１学年レクリエーション「大縄跳び大会」 …… 20
交通安全講話・学生総会 …… 20
スポーツ安全講習会 …… 20
学生の広場
見学旅行に参加して（物質工学科・環境都市工学科） …… 21
クラブ紹介（クイズ研究会・ソフトテニス愛好会・女子サッカー愛好会・料理部） …… 23
平成27年度入学　留学生・編入学生紹介 …… 25
人　事
人事異動 …… 26
名誉教授称号授与 …… 27
新任教員・新任事務職員等紹介 …… 28
統　計
平成26年度表彰学生一覧（有効賞・躍進賞） …… 31
平成26年度英検等合格者数一覧 …… 31
編集後記 …… 32

函館工業高等専門学校

学校だより　2015.6.29　No.194

平成27年度 入学式告辞

校長　但野（ただの）　茂（しげる）

新入生の皆さん、函館工業高等専門学校へご入学おめでとうございます。これまで皆さんを見守って下さったご家族のお喜びもひとしおのことと思います。

本日ここに、ご来賓、関係各位のご臨席のもと、この栄えある入学式を挙行できますことを、私ども教職員一同、感謝申し上げる次第です。

本年度は、本科第１学年新入学生170名、第３学年外国人留学生３名、第４学年編入学生２名並びに専攻科第１学年新入学生16名、合計191名の新しい学生の皆さんが入学されます。希望に燃えて本校の門をくぐる皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

入学される皆さんに、まず、本校の教育目標について確認させて頂きます。函館高専は、職業に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成するため、次の教育目標に掲げています。創造力と実行力を持ち、専門技術に関する基礎知識を持ち、情報技術を活用する能力を持ち、多面的なコミュニケーション能力を持ち、問題解決のためのデザイン能力を持つ技術者です。また、社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できることも重要な教育目標となっています。

皆さんは、充実した学生生活と将来の進路を見据えて本校を進学先に選ばれたことと思います。第１学年の皆さんは、再編された新学科の３期生にあたります。本校は、新学科への移行を契機に、施設や設備の充実を図ってまいりました。校内に入ると、教室、実験室、学生寮などが整備されてきていることに気づかれることと思います。

一新された学習環境のもとで、第１学年の皆さんは、一般科目に加えて、生産システム工学、物質環境工学、社会基盤工学の専門３学科にまたがる全ての工学基盤科目を学んでいきます。この１年間の勉強で、各学科の専門領域ごとの特色と共通点をよく理解した後、第２学年での学科・コースを選択します。第２、第３学年では３学科に分かれ、機械、電気電子、情報、物質環境そして社会基盤の五つのコースのいずれかに所属して、自らの専門性を深めていきます。そして、第４、第５学年ではグローバルマネジメント履修コースを含む10の履修コースのいずれかで学び、高度化・複合化する技術分野に十分対応できる工学的素養を身に付けます。したがって、函館高専の第１学年は、５年間で確実な専門性を身に付けるための、最も重要な期間であります。また、学習習慣を定着させると共に、受動的な学びから高専における能動的な学びへの転換を図る期間でもあります。

第４学年編入学の皆さん、そして外国人留学生の皆さんには、初心を忘れずに研鑽くださることをお願い致します。また本校に新たな活力を与えてくださることを期待いたしております。

専攻科入学生の皆さんは、本科４年生から進めてきた４年間一貫の、「複合型システム工学」教育プログラムの後半をこれから学びます。より高度な科学・技術を学び、学位を取得してください。

函館高専ではグローバルな人材の育成を目指し、様々な国際交流プログラムを皆さんに提供していきます。国外での研修に加えて、留学生の受入や短期の外国人の受入により、海外の同世代の友人との交流の機会を増やして参ります。また、英語によるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める授業や課外活動を展開していきます。皆さんにはそれらの機会を活用して研鑽を積み、将来は国際舞台で活躍できる技術者・科学者に成長していただきたいと考えております。

皆さんには、学業もさることながら、課外活動や地域貢献活動にも積極的に取り組んでいただきたいと考えております。友人、先輩、先生方、地域の方々、外国の方々との触れあいの中で成長し、充実した高専生活を送って下さい。そして、幅広い教養と高い倫理観に加えて確固たる専門基礎知識を備えた、公共に奉仕する気概を持った創造的技術者に育ってくださることを期待しています。

1年担任からのメッセージ

5年間の過ごし方　～選択肢の幅を広げるために～

1年1組担任　一般科目人文系　准教授　山下（やました）　純一（じゅんいち）

入学してから数ヶ月経ちましたが、高専での学校生活は慣れてきた頃かと思います。普通高校とは違った環境のため戸惑いも多くあるかと思いますが、まずは自分なりのペースをつかんでいくようにしましょう。

さて、入学直後ではありますが、自分の5年後の姿、つまりは卒業する時の姿をイメージしているでしょうか。おそらくほとんどの学生はイメージしていないと思います。5年後の世界を見ることは誰にもできませんので、それは当然のことです。しかし、1年生からどのような心構えで生活していくかで5年後の姿が大きく変わってきます。

高専生活の中で一番大切で、心配なことと言えば勉強でしょう。しかし、勉強だけではなく、勉強プラス何を経験できるかがとても大切です。部活動、資格の取得、ボランティア、海外研修など、色々な活躍や経験の場があります。そのような経験をすることで、それらが楽しい思い出になると同時に、視野が広がり、5年後の自分の選択肢の幅を広げることが可能になります。

長いようですがあっという間の5年間です。一生懸命勉強に励みつつ、将来の選択肢の幅や視野を広げるために、色々なことにチャレンジをしていきましょう。

輝く高専生へ！

1年2組担任　一般科目理数系　准教授　山本（やまもと）けい子（こ）

1年生のみなさん、高専生活を楽しめていますか？

新しいスーツを着て、期待と不安いっぱいの入学式、慣れない寮生活や通学、部活動でヘトヘトになりながらも、授業や課題をこなしていく……そんな高専生活をスタートさせ、3ヶ月ほどがたちました。

「高専」という環境にも慣れ、自分なりのペースで過ごせるようになってきたころではないでしょうか。

高専5年間の基礎となるこの1年はとても重要な時期です。まずは、授業・家庭学習に対してしっかりと取り組むこと、そして、高専時間を共有する仲間を得ることが大切です。これらはきっと、これからの自分にとってかけがえのない財産になることでしょう。

ここで、高専生活をもっと楽しむために、クラス内を観察してみましょう。個性豊かなメンバーが揃っていることに気づくと思います（なぜなら、みんな「高専生」だから）。クラス全員で、この個性を上手く活用し、支え合えば、授業も高専生活も楽しく活気あるものにすることができるはずです。

長いようで短い5年間です。大切な仲間とともにキラキラと輝く高専生になってください。

共に成長する5年間を

1年3組担任　一般科目人文系　准教授　泊（とまり）　功（こう）

ようこそ函館高専へ。4年ぶりに1年生の担任を持ちました。以前の職場から通算すると記念すべき10クラス目の担任となります。前任校で初めて担任した子供たちはもう私自身と同じ40代ですから、それぞれの職場で中堅幹部として活躍しています。中には市内で勤務医や開業医をしている教え子もいるので、成長ぶりの観察も兼ねて加齢とともに衰える我が身をメンテナンスしようと彼らの下を訪れると、「先生、昔と変わりませんね」とよく言われ

ます。ここは素直に喜んでいいところなのかもしれません。しかし、笑顔で「そうか、ありがとう」と言いつつ、内心では「でもね、私も日々成長しているのだよ」と憤慨します。

そうです。「変わらない」のは成長がないこと。彼らも含め、これまで担任してきた全ての学生が、私の教員としての、また人間としての成長の糧であり、一番大切な心の財産です。もっとも私の成長率の方はここ最近彼らの伸びの数分の一に留まっていて、もはや伸び代が擦り減ってしまった中年教員の哀しさを露呈していますが…。

今年また１年３組という大きな財産が加わりました。君たちが高専での５年間どのように成長するかとても楽しみです。と同時に自らも共に成長すべく精進したいと思います。

努力するということは・・・・

１年４組担任　一般科目理数系　准教授　宮崎（みやざき）　真長（みたけ）

１年４組の皆さん、入学おめでとう。皆さんはそれぞれの希望・期待をもって高専に入学してきたと思いますが、これからの５年間、充実した学生生活を送るために、毎日、自学自習する習慣をはやく身につけましょう。ホームルームでも話しましたが、時間というものは、充実していても、ぼんやりしていても、あっという間に過ぎていってしまいます。大人になってから「やっておけばよかった」と後悔しないためにも、毎日、何か目標を持って過ごしてください。はじめのうちは分からないことが多くて、何もできない時間が増えて、やる気をなくしてしまう、といったこともあると思いますが、あせらず、確実にできることからはじめていけば良いと思います。

また、１年４組の仲間との新しい出会いを大切にしましょう。皆さん、それぞれいろいろな個性、特技、考え方を持っています。積極的に話しかけて、お互いを知って、共感できることも大切な勉強です。今後、勉強でわからないところや大変な出来事があったときも、お互いに助け合っていけば乗り越えられると思います。

これからの学生生活の中で、たくさんの希望や夢をもって、頑張りましょう。

新たな一歩を歓迎します

１年５組担任　一般科目人文系　准教授　鳴海（なるみ）　雅哉（まさや）

ようこそ函館高専へ。５年間という、長いようで実は短い高専生活が始まりましたね。この期間は、みなさんにとって人生で最も大切な、かけがえのない時間となります。学習・人間関係・恋愛など、さまざまなドラマが展開されることでしょう。充実した高専生活となることを期待します。

担任としての私は、みなさんが「高専に来てよかった」と思ってもらえるように、さまざまなことを教えていきたいと考えています。すでにみなさんが見る私の存在は、口うるさく、厳しいイメージだろうと思いますが、それらの「説教」はすべてみなさんが社会人となって困らないためにしていることです。煙たい、うざったいと思うみなさんも多かろうと思いますが、将来のための苦い薬として飲み込んでくれればありがたいと思います。

この原稿を書いているのが５月半ばです。１年５組の担任として１ヶ月半が過ぎましたが、私は毎日楽しく過ごせています。みなさんもそうであってほしいと願うばかりです。これからの高専生活を、互いに価値あるものにしていきましょう。

また、寮務委員を兼任していますから、１年寮生全体の担任のような気持ちもあります。困ったことがあれば、気軽に声をかけてください。

就任にあたって

校　長　但野（ただの）　茂（しげる）

４月１日に岩熊敏夫校長の後任として函館高専に着任しました。９代目の校長とのことです。これから教職員の皆様方には大変お世話になりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

これまで、北海道大学大学院工学研究院人間機械システムデザイン部門/バイオ・ロボティクス分野バイオメカニカルデザイン研究室を担当していました。専門は、機械工学の材料力学・塑性力学でしたが、生体・医療・福祉関連に研究をシフトしてきました。今の研究をキーワードで示しますと、機械工学、人間医工学、医療福祉工学、材料力学、筋・骨格系バイオメカニクス、医用診断・治療機器、放射線治療工学、高齢者ユニバーサルデザイン、といったところです。現在は、「骨粗鬆症診断を想定した骨応力・強度検出法」、「骨とセラミックスのレーザ接合技術」、「麻痺筋検出のための前腕 EMG-CT の開発」、「ウエアラブルセンサーによる高齢者歩行能力診断装置の開発」、等のプロジェクトを主宰しています。これらは医療機器の新規研究開発に関わるもので、多くの工学系研究者や臨床系医学研究者の協力のもと、企業等との共同研究を進めています。中には、海外の大学（イタリア・トリノ工科大学、スイス・ETH チューリッヒ校、マサチューセッツ大学アマースト校、等）との国際共同研究を行っているのもあります。海外の大学で大学院の修士研究、博士研究として私どもの研究テーマを実施しています。これらの研究はこれからも継続します。私自身高専に移りましたので、これからは研究の面でも先生方のご協力頂くこともあると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

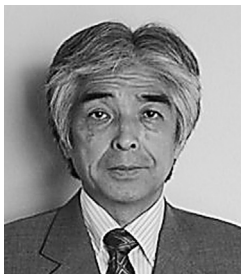
大学では、工学研究科副研究科長（研究担当、総務担当）、教育研究評議員、総長室役員補佐（企画・経営室、研究戦略室）、創成研究機構副機構長、知財審査会会長、等、組織改革と研究戦略・産学連携に関する貴重な経験をさせてもらいました。数度にわたる工学系の組織改革も進めてきました。事務組織との共同作業も身についているようにも思います。社会活動としては、文部科学省科学技術調査員や（独）科学技術振興機構の研究領域主管を兼務しましたし、科学技術人材育成費補助事業委員会委員（JST）、科学技術戦略推進費評価作業部会委員（JST）、日本学術会議連携会員、日本学術会議第二部会生体医工学分科会幹事、等の政府関連委員等を務めてきました。日本機械学会庶務理事、日本運動器科学会理事、日本機械学会バイオエンジニアリング部門長、日本臨床バイオメカニクス学会会長・理事、日本機械学会2015年度年次大会大会委員長、生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会大会長、2015 5th Asian Pacific Conference of Biomechanics 大会長、等の学会活動も行ってきました。これらの経験が高専の校務運営に少しでもお役に立てばと思っております。

ご存知のように、我が国は人口減少社会の局面に突入しています。これは出生数よりも死亡数が多く継続して人口が減少していく現象です。当然子供達の数も激減しています。そのことは高専の取り巻く環境が大変厳しいということです。函館高専がどのようにこの時代の課題に対し、高等教育機関として地域に存続し、そして発展するべきなのか、真剣に考える時です。人口減少の時代にあって、地方と中央との経済格差が著しく広がっています。それが我が国の経済発展を阻害する最大の要因と言われています。いわゆる地方創生です。高等教育機関が自治体や地元企業と一体となった地域連携体制が重要です。地方が活性化する見本を是非この函館から、そして函館高専から発信していきたいと願っております。

生まれは北海道美唄市です。大学卒業後名古屋の会社に３年間、アメリカに１年間いました。それ以外は札幌でしたので、これからの函館の生活が実に新鮮に感じられています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

自主的な取り組みを！

教務主事　浜（はま）　克己（かつみ）



今年度も引き続き、学習・教育面を担当することになりました、教務主事の浜です。

はじめに、昨年度（平成26年度）の成績状況とその対応についてお知らせします。

留年者については、１学年で初めてゼロになったことを含め低学年では減少しましたが、４学年が多く、全体としては１割程度の減に留まりました。また、特例による進級者も２割弱は減少しましたが、それでもまだ５人に１人程度はどちらかに該当していますので、さらにこの数を減らすため、日頃からの継続的な学習習慣の定着に向けた指導を強化したいと思います。

今年度変更になった点について、改めてお伝えします。

まずは、授業の開始時間が20分繰り下がりました。これは、道内４高専で授業の共通化などを含め、色々と連携を図ることを目的として行われたものです。内容の具体的な検討はこれからですが、遠隔授業などのほかに講演会等の同時開催も考えています。ただ、開始が遅くなったにも拘わらず、遅刻者が出ては意味がありません。クラスによっては一斉の朝学習などを実施しているところもあるようですので、是非この時間帯を有効に活用してください。

次に、授業計画書（シラバス）に関してですが、新学科とも関連してページ数が大幅に増えたことを受け、冊子を廃止して電子化を図り、Web 上での閲覧に切り替えました。持ち歩く必要がなく、いつでも確認ができるという利点はありますが、現状のものは教育課程表がない上に検索等の機能もなく、使いにくいとの意見をいただいています。この点については早急に改善を図りたいと考えていますので、少し時間をいただきたいと思います。

授業に関しては、受動的な学習から主体的（能動的）な学習への変更として、ＩＣＴの活用、ペアワーク、グループワーク等のさまざまな授業形態での実施を学校全体で推進し、学生に対して積極的な参加を促すとともに、ＬＭＳ（学習管理システム）等の活用により自学自習の充実も図ることで、学習習慣の定着にも役立てたいと思っています。

新学科については、３年目を迎えました。２学年の学科・コース配属に関しては、今年度も全体としては２割強の学生が当初の希望学科から変更となり、５名を除いて残り全員が希望通りでした。来年度からは履修コースもスタートします。各履修コースの配属人数やその方法については、すでに３学年の学年集会で簡単に説明をしましたが、特にグローバルマネジメント履修コースにおける具体的な科目内容や他との差異等についての説明は不足していますので、早い時期にその機会を設定したいと考えています。

「ボランティア活動」は、昨年度その対象範囲を広げたこともあり、当該科目の単位を修得した学生が大幅に増えました。自己啓発・研鑽としての「特別研修」、「海外研修」を含め、今年度も積極的な履修を呼び掛けています。

また、グローバル化への対応として、国際的に活躍できる人材の育成にも力を入れています。そのため、上記の海外研修や国際交流への積極的な参加も推奨しており、併せてそのための支援についても貸与型、給付型など色々と用意をしています。

目標を定めるとともに、さまざまな活動に対して自主的な取り組みを行ってください。

～良識ある大人への成長を願って～

学生主事　本村（ほんむら）　真治（しんじ）

それぞれが新たな気持ちで今年度をスタートさせ、３ケ月が経とうとしています。学生諸君は日々の成長を感じながら学生生活を過ごしているでしょうか？　私も、昨年度に引き続き学生主事を拝命することとなり、少しでも自らを成長させながら、学生諸君を生活面から全力でサポートしていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、冒頭の問いかけですが、学生のみなさん、如何ですか？　日々の成長とは、もちろん勉強だけではありません。学生のみなさんは20歳で卒業するまでの間に、『良識ある大人』として社会へ出て行くための準備を済ませなければなりません。他者との関わりで成立している社会生活において必要なルールやマナーを重んじて実践できる心、それが良識であり、この心を育むことが大切だと思います。今年度、ルールやマナーに関連して大きな変化がありました。以下に説明させていただき、保護者の皆様含め、理解をより深めたいと思います。

まず、平成25年６月に公布された「いじめ防止対策推進法（平成25年度法律第71号）」に基づき、本校では今年２月に「函館工業高等専門学校いじめ防止基本方針」を制定しました。２年生以上の学生の保護者には、昨年度末に文書でお知らせし、１年生の保護者には入学式当日に開催された育成会総会で説明させていただきました。また、学生のみなさんには今年度の始業式で制定の趣旨と方針の概要を説明したところです。いじめの法律上の定義は「相手が心身の苦痛を感じているもの」とされていますが、本校の基本方針ではこれに加えて、「たとえ仲間同士のふざけ合いでも、相手の心や身体を傷つける行為」、さらに「相手が嫌がっていなくても、周囲から見て常識では考えられない行為」についてもいじめと定義しています。本校では、この基本方針に従って、いじめの未然防止および早期発見等に取り組んでいきたいと考えておりますので、学生諸君にはこの方針の趣旨を十分理解し、適切な人間関係を築いてもらいたいと思います。また、家庭と学校との緊密な連携が大事ですので、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

次に、今年６月１日から「改正道路交通法」が施行され、自転車運転における危険行為に対する指導が強化されました。特定の危険行為を過去３年以内に２回以上繰り返した場合、「自転車運転者講習」の受講が命じられ、受講しない場合には５万円以下の罰金が科せられることになります。改正前から道路交通法では自転車の二人乗り、並進、夜間無灯火などは罰金の対象となる危険行為でしたが、今回の改正では、受講義務の対象となる危険行為として「許可されていない歩道の通行」、「車道の右側通行」、「歩行者妨害」などが具体的に示され、スマホ・イヤホン・傘さし運転などは「安全運転義務違反」に該当することがあります。本校では５月21日に、函館中央警察署に依頼して交通安全講話を実施し、全学生に対して注意喚起を行ったところです。

以上、いじめと自転車について記しましたが、ルールが出来たから守るのではなく、さまざまな局面でどうすべきかを考え、良識をもって判断できるような人なる必要があります。これには訓練が必要で、学生生活がその訓練の場なのですから、積極的に他者と関わりをもち、多くの経験の中で、ルールやマナーについて考え、実践してほしいと思っています。

最後に、「良識に到達するには、良い精神をもつだけでは十分でなく、たいせつなことは『精神をよく用いること』である。」とデカルト（1637　方法序説）が言っています。ルールやマナーを知識として知っているだけでは不十分であり、他者との関わりの中でルールやマナーを実践し考えることが『良識ある大人』への成長に繋がるのだと私は理解しています。学生諸君、良識ある大人への訓練期間は皆さんが考えているほど長くはありません。日々、「良い精神をよく用いること」を心がけましょう。保護者の皆様、子どもたちの成長を楽しみに、ご家庭と学校と連携しつつ見守っていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

学校だより　2015.6.29　No.194

寮生会の在り方とその方向性

寮務主事　渡辺　力（わたなべ　ちから）

この数年、春潮寮では寮生数が増加傾向にあり、今年度は総勢202名で新たな１年がスタートしました。この増加傾向を踏まえて、昨年度中に春潮寮の10年後を見据えた寮生受入見通しを検討し、新棟建設と留学生・外国人研修生の受入拡大も含めた将来計画の概要を纏めました。これに基づいて、本年度は女子寮の８室を二人部屋とし、次年度以降のさらなる入寮者増に対応すべく準備を進めています。

さて、春潮寮は「人間形成の場（教育寮）」と位置付けられ、１年生から５年生までの寮生が規律ある共同生活と集団生活を通して、豊かな人間性を育むことを目的とした教育施設です。さらに、寮生による自主的な運営を重んじており、規律ある共同生活を自主的に運営するために寮生会がその中心的役割を担っています。「学校の指導の下で、寮生会が中心となって規律ある寮生活を維持する」と言う枠組みの中で、上級生と下級生の集団生活を通して社会性（先輩や後輩への接し方、仲間とのコミュニケーション）を、共同生活を通して助け合う心（協調性、チームワーク、思いやり）を、多くの規則を通してルールを重んじる心を育む。そして、社会人となるために必要な能力要素を身に着けた上で、社会に出て行く。これが理想的な学生寮の在り方であり、函館高専の春潮寮が目指すところであります。

春潮寮が、このような教育寮としての目的を十分に果たすためには、今後も寮生会を中心に据えた寮運営がなされる必要があります。しかしながら、春潮寮の将来の在り方を考えると、受入体制の整備ばかりでは無く、寮生会の在り方や自主ルールなどについても見直す時期がきています。例えば、平成25年に施行された「いじめ防止対策推進法」や平成26年度に制定された「函館工業高等専門学校いじめ防止基本方針」にあるように、いじめの定義が大きく変わっています。特に、男子寮52年の歴史の中で受け継がれてきた伝統と称する仕来りの中には、今の時代に見合わないものも多く存在します。これらを見直さなければ、何処かで寮生会の活動自体が破綻することは明らかです。

本年度は、４年電気電子工学科 三谷祐輔君が男子寮総代を、４年機械工学科 山登千咲さんが女子寮総代を務め、寮生会の先頭に立って、行事の企画・運営や低学年の生活指導にあたっています。男子寮では、昨年度より「悪しき伝統は排除する」「今の時代に見合ったルールへ変更する」ことを寮生会と寮務委員会が協議し、一年生の入浴ルールの撤廃、寮祭などでの寸劇の見直しと軽減を行っています。本年度は、三谷総代を中心に低学年指導の見直しにも取り組んでおり、指導内容を文書化してさらなる透明化を図り、１、２年生に理解・納得させる生活指導が行われています。また、女子寮では、山登総代を中心に、寮生会による低学年居室の巡回、一斉学習での１年生への学習指導、リサイクル活動などの新たな取り組みが実施されています。まだ歴史の浅い女子寮においても「寮生会を中心にした秩序維持」の枠組みが生まれており、大いに期待しているところです。

最後に、寮生諸君は、各自が寮生心得を守り、高専生・寮生としての自覚を持ち、自己の向上に努めて下さい。寮生会を中心として、寮の秩序を維持し、上級生と下級生の間に健全な関係を築いて下さい。そして、「今の時代に見合った春潮寮」へと変革していきましょう。

国際的に通用する実践力のある技術者の育成

専攻科長　鹿野弘二

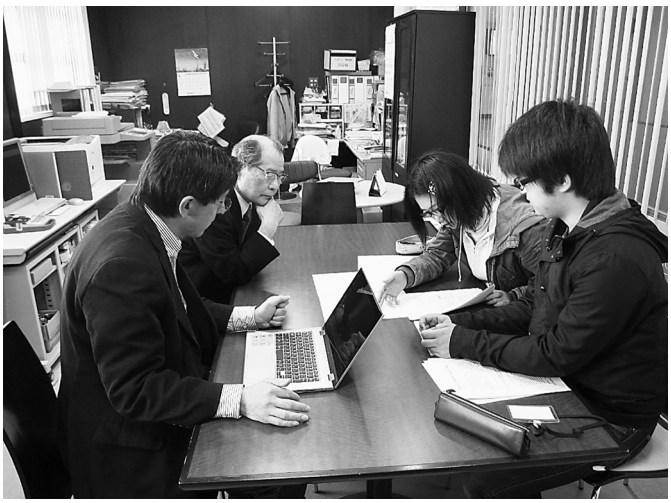
函館高専・専攻科は本科の機械・電気電子・情報の３工学科を母体とする生産システム工学専攻と物質・環境都市の２工学科を母体とする環境システム工学専攻から構成されています。２年間の課程を修了し、大学評価・学位授与機構の審査によって認定を受けると「学士（工学）」の学位を取得することができます。また、専攻科２年と本科４・５年を合わせた４年間の「複合型システム工学教育プログラム」を修了すると、JABEE 認定プログラムを修了した国際的に通用する実践力のある技術者として認められます。平成16年４月に設置されてから11年が経過し、これまでに255名の修了生を輩出し、修了生は技術者・研究者として社会で活躍しています。

本専攻科では、５年間の高専教育で学んだ専門知識をさらに深めるとともに、広い分野の知識を身に付けることによって複合領域で活躍できる技術者の教育を目指しています。

そのため、人間力を養うために英語や歴史などの一般科目分野も学びます。また、専門分野では、学生がこれから技術者として活躍するとき、ベースとなる技術分野とそれに関連する技術分野の両方を学びます。特に実践的な技術を身につけるため、専攻科では創造実験（PBL：Project-Based Learning）に力を入れています。この PBL による教育は、多面的なコミュニケーション能力の育成にも重要な役割を果たしています。

また、専攻科では、特別研究発表会などいろいろな機会でプレゼンテーション能力を鍛える場面を用意しています。さらに、国際的に通用する技術者を育成するための施策の一つとしてサンフランシスコ州立大学（SFSU）教員によるプレゼンテーション授業を平成22年度から実施しております。１週間の集中講義の後、全員が成果を英語でプレゼンテーションし、SFSU の教員が採点します。まさに、実践的な英語でのプレゼンテーション能力を鍛える場となります。さらに、昨年度からは特別研究発表会において発表スライドを英語表記する試みを取り入れたところ、数名の学生が自主的に英語でプレゼンテーションしたり、英語による質疑応答の場面もあり、英語への関心の高さを伺い知る機会となりました。

このように、技術面での実践的教育は当然のこととして、コミュニケーション能力、そしてプレゼンテーション能力を鍛える教育を行っているのが専攻科です。英語プレゼンテーションの推進にも積極的に取り組み、国際的に通用する実践力のある技術者の育成に向け着実に進化しております。



ＰＢＬ打ち合わせ

本科学生の皆さん、実践力のある技術者を目指して専攻科でさらに２年間勉強してみませんか？

最後に、平成25年度から本科が３学科に再編されたことから、これに対応すべく平成30年度から開講する新専攻科の準備を進めています。国際的に通用する技術者を育成すべく理念は変わらず、さらに進化した専攻科を目指しております。

学校だより　2015.6.29　No.194

「グローバルな学生になろう！」

国際委員会委員長　上野（うえの）　孝（たかし）

今年度も本校ではさまざまな国際交流事業を行う予定です。現在のように多くの海外提携校ができ、国際交流が盛んになってから４年目になります。プログラムに参加した学生の経験を見聞きしたり、グローバルマネージメント履修コースに興味を持って、参加する学生が増えてきています。あなたも交流事業に参加したり、思い切って、海外へ飛び出しませんか？

１．フランス IUT からの研修生受け入れ：平成27年４月９日～６月27日

東北地区の高専と共同で行っている事業です。今年は機械、化学、情報分野から５名がやってきました。学生寮で生活しながら、各専門学科の指導教員の下で日々研究に打ち込んでいます。

2. ニュージーランド語学研修：平成27年８月28日～９月14日予定

北海道地区の高専と共同で行っている事業です。夏休み中に、ネーピア市にある Eastern Institute of Technology ホークスベイ校で２週間、びっしりと英語の研修を受講します。習熟度別にクラスを分けるので、自分の能力に合った少人数クラスで効果的に英語を身につけることができます。研修中はホームステイするので、ホストファミリーを通じて現地の生活や習慣、文化を思い切り体験できます。今年度は５月20日が〆切なので、間に合わなかった学生は来年度の参加を考えてみてください。

３．マレーシア派遣・ホームステイ：平成28年３月中旬　８日間予定

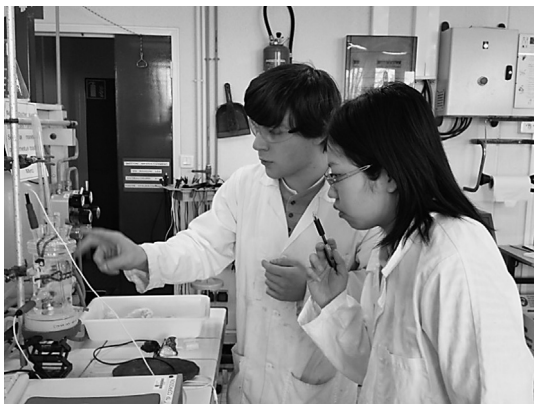
マレーシアのペナン島にあるチュンリン高校を訪問し、交流を深めるプログラムです。ホームステイを体験し、熱帯の美しい島で英語に浸る経験をします。

４．フランス IUT への派遣：平成28年３月～４月予定

春休みを利用して、約40日間フランス東北部にある大学で基礎研究を行うプログラムです。専攻科生や専攻科進学が決まっている５年生などが対象です。研修中は、英語に加えてフランス語を学ぶ機会もあるので、トリリンガルを目指す人にはお勧めです。

最後に、本校の国際交流ホームページについて紹介します。トップページ右の「国際交流事業」から入ってください。年間交流計画や参加学生募集の案内、海外提携校、そして国際交流に関わる本校の貸与金・支援金などの情報が記載されています。これとは別に、海外派遣では、一定の要件を満たせば日本学生支援機構から奨学金が支給される場合があります。また、派遣前訓練と帰国後報告会などを経て「海外研修」等の単位として認められるようにもなりました。

NZ 研修で羊を抱く学生



フランス IUT で実験を行う学生

～キャリアプランニングや学校生活の悩みの解決を支援します～

総合学生支援センター長　菅原雅之（すがわらまさゆき）

1　総合学生支援センターの役割

総合学生支援センターは、学生諸君の進路・学業・メンタルヘルス等、総合的な支援を行うことを目的としております。進路の悩みは「キャリア教育支援室」、学業の悩みは「学習支援室」、メンタルヘルスは「学生相談室」へ相談。もちろん、担任や教科担当、部活動顧問などいろいろなチャンネルが開かれています。また、女子学生のためには、女性教職員がスタッフとなっている「女子学生キャリアサポートチーム」があります。ただし、悩みには単純なものと複雑な要因が絡み合っているものなどいろいろです。相談しても出口が見つからないものやら、担当教員に相談してみたら単なる勘違いで一瞬のうちに解決するものもあります。いずれの場合にも当てはまることは、「困ったな～」と思ったら改善策を考えてみること、また、「改善策が見えないな～」と感じたら、すぐに担任に伝える、相談しやすそうな教員に尋ねる、思い切って「キャリア教育支援室」・「学習相談室」・「学生相談室」へ行ってみること。特効薬的な改善方策はなかなか見当たらなくても、その悩みの本質や課題の改善方策は徐々に明らかになっていくはずです。

2　高専学生を取り巻く環境

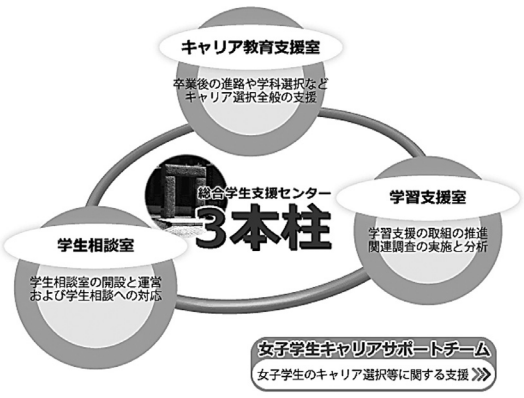
本校は５年制の一貫教育を行い、大学卒業者と同じ程度の学力・能力を育成しようとする高等教育機関であります。そして、学生諸君が地域・日本・世界のあらゆる分野で活躍するための能力を備えた技術者として成長するよう、できる限りの支援を行っております。ただし、５年間の学校生活は山あり谷ありです。勉強も易しくはありませんし、人間関係などでの悩みも尽きないでしょう。そこでストレスやフラストレーションをどのような手立てで処理していくかが難しいところです。ストレス耐性を身に付けていくことも青年期の課題です。それをクラスメートから学んだり、寮・部活動の先輩から教えられたりと生活の場面で多くのことを体験します。総合学生支援センターでは、組織的・計画的に学生諸君の悩みの解決を支援するため、講演会や説明会など各種の取組を行っています。

3　ライフデザインとキャリアプランニングの重要性

ライフデザイン、キャリアプランニングを進めるには、方法と手順があります。まず、自分の価値観を認識しながら、他者との望ましい人間関係を構築する。同時に、学習・研究活動を通して自らの勤労観・職業観について確かな価値観を形成していく。そして学校見学・企業見学、インターンシップで進路決定を進めていくことが大まかな方法と手順です。まずは、「10年後の理想の自分像」を書き留めてみましょう。書きながら疑問に感じること、調べてみようと思うことなど、気づくことが複数出てくるはずです。それらの疑問を解く鍵が総合学生支援センターの開催する講演会や茶話会に確実にあります。学生諸君それぞれに合ったライフデザイン、キャリアプランがあると思います。「10年後の自分像」、「30年後の理想とする生き方」などをデザインしたり、プランを練ること、それはあなたが自分の進路決定に満足するための第１歩です。

4　「着地点」＝「到達目標」の設定

雑誌やテレビ等で、原晋氏（青山学院大学陸上競技部監督）が次のようなことを述べております。「人間はそもそも怠け者。だから、ある程度の指針をつくり、レールを引いてまず着地点をつくる。着地点がないと努力の方向がぼやけてしまう。人間は遊ぶ動物だから、いろいろな誘惑に負けて逃げてしまう。」箱根駅伝において驚異的な強さで初優勝したチームの監督である原晋氏の主張で注目すべきは、「着地点を設定すること」です。高専５年間の生活は、ぼんやり過ごすには長く、目的をもって過ごすには短くもあります。学習や研究、部活動、寮生活など生活の様々な場面で、「着地点」＝「到達目標」があるべきです。この「着地点」＝「到達目標」の設定はなかなか難しいものです。そこで、キャリア支援室主催の大学説明会や就職講座に出席して情報を収集しましょう。また、女子学生は女子学生キャリアサポートチーム主催の茶話会などに参加して、本校の女性教職員や各界で活躍する女性から直に体験談を聞き取りましょう。きっとライフデザインを見極める発見や行動の契機が見えることと思います。困難なことも、少しずつ解決できることは本校の進路実績からも明らかです。



続いて、各セクションの室長より利用の仕方等について案内しますので、引き続きお読み下さい。

学習支援室 －規則正しい学習習慣の定着を－

学習支援室長　奥平　理（おくだいら　おさむ）

学生のみなさんの不安の多くは、「勉強についていけるだろうか」ということだと思います。しかし、以下のことができているのなら、全く心配ありません。

・授業を集中して受けることができている。
・毎日勉強をする習慣がある。
・わからないことがあれば、すぐに質問することができている。
・課題を締め切りまでに提出できている。

もしもできていないというのであれば、一刻も早くできるように心がけてください。学習支援室は、これらの不安を解消するお手伝いをします。例えば、１～２年生対象に「スタディサポート」（ベネッセコーポレーション）を実施しました。これにより、みなさんの家庭学習時間が、まだまだ期待する水準には達していないことがわかりました。

１年生は「高専生のコミュニケーション入門」で学年の成績や個人の成績から問題点をグループ討議し、レポートにテストに向けての反省点をまとめてもらいました。また、２年生については特例進級（１年生の単位を残して進級）者を対象に「特例進級者特別学習」を５月18日～６月１日まで行いました。対象学生は基本的に学科・コースの先生の研究室で最低５日間、最低２時間／日は学習を行い、未修得科目単位の合格と前期中間試験での得点増をめざしました。

このように、学習支援室ではみなさんの学習習慣が定着するような工夫をしていきます。まずは１～２年生の学習指導から始まりました。年内にはLMSを活用した学習支援への取り組みも行っていく予定です。ぜひ積極的に利用してもらいたいと思います。

キャリア教育支援室の紹介

キャリア教育支援室長　剱地利昭（けんち　としあき）

キャリア教育支援室は、学生の皆さんの具体的な進路設計や実現に向けた努力を、学科や担任の先生と連携をとりながら支援する組織です。学生の皆さん一人ひとりが持てる力を十分に発揮して進路を決定できるようにさまざまな情報提供やイベントを実施しています。主な活動内容は以下のとおりです。

・学年毎のキャリアデザイン講座や各種講演会の実施
・就職・進学・インターンシップ情報等の提供（進路支援システムでの情報提供とともに、キャリア教育支援室にて各社のパンフレット・求人票の原本、大学編入の募集要項等を閲覧できます）
・就職・進学に関するカウンセリングや面接指導の実施

キャリア教育支援室の開室時間は、10：30～13：10、13：55～17：00です。先輩が残してくれた就職・進学受験報告書なども閲覧できますので、保護者や低学年の皆さんもお気軽にお越しください。

平成26年度　卒業生の就職及び進学等一覧

進路先	機械	電気	情報	物質	環都	生産	環境	合計
【建設業】								
新興プランテック㈱	1							1
須賀工業㈱	1							1
日鉄住金テックスエンジ㈱	1							1
北海道エアウォーター・エンジニアリング㈱		1						1
㈱エコス北栄			1					1
神田通信㈱			1					1
札幌日信電子㈱			1					1
ＮＴＴインフラネット㈱					1			1
㈱高木組					1			1
東亜建設工業㈱					1			1
西松建設㈱					1			1
㈱早水組					1			1
前田道路㈱					1			1
三井住友建設㈱					1			1
㈱横河ブリッジホールディングス					1			1
㈱リージャスト					1			1
（小計）	3	1	3	0	9	0	0	16
【食料品・飲料・たばこ・飼料製造業】								
麒麟麦酒㈱北海道千歳工場	1							1
サントリープロダクツ㈱	1							1
日本たばこ産業㈱北関東工場		1						1
北海道ファインケミカル㈱				1			1	2
雪印メグミルク㈱				1				1
（小計）	2	1	0	2	0	0	1	6
【印刷・同関連業】								
独立行政法人 国立印刷局				1				1
（小計）	0	0	0	1	0	0	0	1
【化学工業，石油・石炭製品製造業】								
極東石油工業合同会社	1			2				3
大陽日酸㈱	1	1						2
東燃ゼネラル石油㈱	1	1		1	1			4
富士石油㈱	1							1
㈱細川洋行	1							1
旭化成グループ会社		1						1
日本ゼオン㈱		1		1				2
旭化成㈱				1			1	2
花王㈱				1				1
ＪＮＣ石油化学㈱				1				1
㈱資生堂				1				1
昭和電工㈱				2				2
第一三共プロファーマ㈱				1				1
大正製薬㈱				1				1
東邦化学工業㈱千葉工場				1				1
東和薬品㈱				1				1
㈱日本触媒				1				1
藤森工業㈱横浜事業所				1				1
丸善石油化学㈱				2				2
和光純薬工業㈱				1				1
日本蒸溜工業㈱							1	1
（小計）	5	4	0	19	1	0	2	31
【鉄鋼業，非鉄金属・金属製品製造業】								
㈱アズマ		1		1				2
日本原燃㈱			1					1
シンセメック㈱				1				1
東洋製罐㈱埼玉工場				1				1
㈱フルヤ金属				1				1
㈱東京鐵骨橋梁					1			1
（小計）	0	1	1	4	1	0	0	7
【はん用・生産用・業務用機械器具製造業】								
キヤノン㈱	1							1
㈱タイヨー製作所	1							1
㈱ニコン	1							1
富士ゼロックス東京㈱	1							1
三菱日立パワーシステムズ㈱	1							1
村田機械㈱	2							2
㈱ユニシス	1							1
東芝エレベータ㈱		1						1
㈱メデック		1						1
コニカミノルタビジネスソリューションズ㈱			1			1		2
タカハタプレシジョンジャパン㈱				1				1
㈱菅製作所						1		1
（小計）	8	2	1	1	0	2	0	14
【電子部品・デバイス・電子回路製造業】								
函館電子㈱	1							1
（小計）	1	0	0	0	0	0	0	1
【電気・情報通信機械器具製造業】								
セイコーエプソン㈱	1							1
パナソニックシステムネットワークス㈱システムソリューションズジャパンカンパニー	1							1
シャープ㈱		1						1
東芝メディカルシステムズ㈱		1						1
㈱日本デジタル研究所		1						1
サンリツオートメイション㈱			2					2
ニッテツ北海道制御システム㈱			1					1
パナソニック システムネットワークス㈱			1					1
㈱日立製作所						1		1
富士通㈱						1		1
（小計）	2	3	4	0	0	2	0	11
【輸送用機械器具製造業】								
函館どつく㈱		1						1
大岡技研㈱			1					1
㈱ダイナックス						1		1
ダイハツディーゼル㈱						1		1
（小計）	0	1	1	0	0	2	0	4

進路先	機械	電気	情報	物質	環都	生産	環境	合計
【その他の製造業】								
㈱シード				1				1
NOK ㈱						1		1
（小計）	0	0	0	1	0	1	0	2
【電気・ガス・熱供給・水道業】								
北海道ガス㈱	1							1
北海道パワーエンジニアリング㈱	1							1
中部電力㈱		1						1
東京ガス㈱		1			1			2
東京電力㈱		1						1
北海道電力㈱		4						4
東京水道サービス㈱					1	1		2
（小計）	2	7	0	0	2	1	0	12
【情報通信業】								
㈱エスイーシー		1	3			2		6
㈱ iD			1					1
㈱インテリジェントウェイブ			1					1
HDC ㈱			1					1
エヌアイシーネットシステム㈱			2					2
NHK アイテック㈱			1					1
㈱ NHK メディアテクノロジー			1					1
NTT コム ソリューション＆エンジニアリング㈱			4					4
㈱エヌ・ティ・ティ・データ			1			1		2
MKI テクノロジーズ㈱			1					1
㈱ OEC			2					2
㈱協和エクシオ			1		1			2
㈱ソルクシーズ			1					1
ＴＤＣソフトウェアエンジニアリング㈱			1					1
テコム㈱			1					1
日信 IT フィールドサービス㈱			1					1
㈱メディアグローバルリンクス			1					1
㈱ユウシン			1					1
㈱ RayArc			1					1
メディアジョイント㈱				1				1
㈱アットウェア						1		1
㈱ロジックデザイン						1		1
（小計）	0	1	26	1	1	5	0	34
【運輸業，郵便業】								
㈱ネクスコ東日本エンジニアリング					1			1
（小計）	0	0	0	0	1	0	0	1
【卸売業，小売業】								
㈱ベスト	1							1
矢崎総業㈱		1						1
キヤノンシステムアンドサポート㈱			1					1
（小計）	1	1	1	0	0	0	0	3
【学術研究，専門・技術サービス業】								
㈱三井化学分析センター				1				1
㈱アリヤス設計コンサルタント					1			1
㈱開発公営社					1			1
北日本港湾コンサルタント㈱					1			1
㈱北未来技研					1			1
㈱東鵬開発					2			2
北開工営㈱					1			1
ヤマハモーターエンジニアリング㈱						1		1
㈱ドーコン							1	1
（小計）	0	0	0	1	7	1	1	10
【サービス業】								
ANA ラインメンテナンステクニクス㈱		1						1
京西テクノス㈱		1						1
日本オーチスエレベータ㈱		1						1
㈱日立ビルシステム		1						1
苫東石油備蓄㈱			1					1
（小計）	0	4	1	0	0	0	0	5
【公務】								
国家公務員					1			1
北海道庁					1			1
札幌市役所					1			1
（小計）	0	0	0	0	3	0	0	3
【大学編入学・専攻科等進学】								
長岡技術科学大学					3			3
豊橋技術科学大学	3		2	7				12
北海道大学					1			1
室蘭工業大学	1			1	2			4
筑波大学		1						1
千葉大学		1						1
東京農工大学	1							1
金沢大学	1							1
岐阜大学	2							2
名古屋大学			1					1
神戸大学			1					1
公立はこだて未来大学			4					4
函館高専専攻科	3	3	2	7	1			16
長岡技術科学大学（大学院）						1		1
豊橋技術科学大学（大学院）						1		1
北海道大学（大学院）						2	3	5
信州大学（大学院）							1	1
名古屋大学（大学院）							1	1
奈良先端科学技術大学院大学						1		1
（小計）	11	5	10	15	7	5	5	58
【その他】								
その他			1	1	1	1	1	5
（小計）	0	0	1	1	1	1	1	5
合計	35	31	49	46	33	20	10	224

学生相談室

～ 学生のちょっとした心配事に対し、サポートします ～

学生相談室長　長澤修一（ながさわしゅういち）

学生相談室は学生のみなさんがよりよい学生生活を送れるように支援いたします。

みなさんのちょっとした心配事、不安な感じ、あるいは、さまざまな悩みに対して、みなさんと一緒に考えて、気持ちが楽になるような方法を見つけたいと思っています。

学生相談を担当するのは本校の教員と臨床心理士の資格を持つカウンセラーです。心の悩みについては、主にカウンセラーが対応します。保護者のみなさまからの学生に関するご相談にも応じています。プライバシーは厳守されますので安心して来室してください。

学生相談室の室内の様子

また、学生相談室では学生のみなさんの健康を保つためのアンケート（例えば、「こころと体の健康調査」）を学校全体で年２回ほど実施し、毎日の生活の上で心とからだのバランスが保たれているかを確認して、学生生活の手助けになればと思っています。

そのほか、コミュニケーション・スキル・トレーニングも行なっていますので、コミュニケーションに自信のない方も是非、来室してください。

利用のしかた　学生相談室は保健室の隣にあります。利用を希望される場合は直接お越し下さい。平日の開室時間は15時～17時です。来室時にすぐ対応しますが、混んでいるときはお待ちいただくか、別の日に来ていただくこともあります。面談日を予約することもできます。予約は電話でも可能です（☎0138－59－6336、受付時間：平日15：00～17：00）。

平成27年度前期　学生相談室担当者一覧

曜　日	担　当　者
月曜日	川　上　健　作（生産システム工学科）
火曜日	永　家　忠　司（社会基盤工学科）
水曜日	成　田　行　子（非常勤カウンセラー、臨床心理士）
	松　尾　祥　和（生産システム工学科）
木曜日	小　山　慎　哉（生産システム工学科）
金曜日	成　田　行　子（非常勤カウンセラー、臨床心理士）
	宇月原　貴　光（物質環境工学科）

学　科　紹　介

生産システム工学科

生産システム工学科主任　山田（やまだ）　誠（まこと）

一昨年度から始まった新学科体制のもと、今年度の生産システム工学科には、第２学年３クラスに、124名、第３学年機械コースに44名、電気電子コースに40名、情報コースに32名、計240名の学生が在籍しております。これから生産システム工学科第１、２期生として、幅広い知識・技術を身につけ様々な分野で活躍してくれることでしょう。

私たちの生活環境を豊かにするための学問、それが工学です。その工学の中でも、現代の「ものづくり」の根幹を担っているのが機械工学、電気・電子工学、情報工学であり、この三つの分野を融合した教育課程が生産システム工学科です。

生産システム工学科では、「機械・電気電子・情報の知識を組み合わせて、人と環境のために役立つものづくりを実践できる技術者を育成すること」を目標としております。この三つの分野の知識・技術を組み合わせることにより、新しいものづくりを創造します。

ものづくりというのは、ある発想からそれを具体化するための設計を経て、実体を創成する工程からなります。従って豊かな発想がなければ良いものづくりは実現できません。この「発想」はどこから生まれるのでしょうか。これは、見・聞・そして実践する様々な経験から創生されます。特に、いろいろな実践経験のなかで、実際のものに触れることが最もこの経験値が高くなります。生産システム工学科では、機械、電気電子、情報の三つの分野をコースとして、その三コースに関する様々な実験･実習を通してこの経験値を身につけ、豊かな発想ができるようカリキュラムを構成しております。さらに、４年生からは、専門性を高めるために、また、複数の専門性をさらに高度に融合するために、あるいは、高い国際性とマネジメント力を備えるために、６つの履修コースが準備されます。多くの分野の知識・技術、多くの経験的知識、複数人のアイディア・技術の融合により良いものが産み出されます。

「いかにすぐれた才能があっても、健康を損なってしまっては十分な仕事もできず、その才能もいかされないまま終わってしまう。では健康であるために、必要なことは何かというと、栄養であるとか、休養とかいろいろあるが、特に大切なのは心の持ち方である。」と、松下幸之助氏は言っております。その“心”とは、目標に向かって真剣に取り組む姿勢を言っております。生産システム工学科でも、しっかりとした心を持てるよう、豊かな心にできるよう、いろいろなことに挑戦していきます。

物質環境工学科

物質環境工学科主任　鹿野（しかの）　弘二（こうじ）

物質環境工学科では、複雑な環境問題などの解決に応用できる人材を育成することを主眼に農学と工学を高度に融合した農工連携に関する教育・研究を進めております。持続可能な社会を構築していくために、太陽光や風力発電などに加えて、バイオエタノールやバイオガス（メタンガス）といった再生可能なエネルギーの研究・開発や、効率的な食糧生産技術の開発に加えて収穫や食品加工において廃棄される非可食部分を利用した未利用資源利用技術の研究・開発などに取り組んでいます。

学年進行に伴い、２、３年では物質環境コースにおいて基礎的な知識や技術を修得し、４、５年では「材料・物性履修コース」または「バイオ・環境履修コース」を選択して、より高度な専門教育を受けることができます。また、現在、第３学年には２名の留学生が在籍し、国際色豊かな教育環境ともなっています。

社会基盤工学科

社会基盤工学科主任　澤村（さわむら）　秀治（しゅうじ）

４月より、１期生が３年生に、２期生が２年生になり、いよいよ社会基盤工学科が函館高専の土木技術者教育の中心となってきました。また、３年生には、社会基盤工学科としては初めての外国人留学生ムギ君（モンゴル）を迎えました。ムギ君の活躍は、社会基盤工学科の学生たちにとって、大いに刺激になることでしょう。

社会基盤工学科では、先ず３年生までに土木工学の基礎的技術をしっかりと学びます。その後、更に専門性を高めるため、４年生からは二つの履修コースに分かれます。「建設設計コース」では、市民生活や地域産業（水産業、農業、エネルギー関連）の基礎となる社会基盤の計画、設計、施工、診断、維持管理などの総合力を有し、安全で安心な社会基盤を整備する分野で活躍できる技術者を育成します。「都市デザインコース」では、市民生活と社会基盤整備を取り巻く課題に関する調査、分析の知識を有し、CG／CADやGISなど高度な情報技術を駆使して安全で快適な空間と環境を創造する分野で活躍できる技術者を育成します。

〈機械工学科〉

平成27年度の機械工学科には、４年生、５年生がそれぞれ、42名、40名で、82名の学生が在籍しております（内留学生１名）。昨年は厳しい社会情勢の中、全員が希望する進学・就職先へ巣立ちました。今年の５年生40名は、今まさに就職・進学活動をしているところです。

機械工学科では、「人のために役立つ」「生活を豊かにする」「環境にやさしい」“ものづくり”を目指す創造的技術者を育てることを目標としております。社会で自分の力を十分に発揮するためには、”自信”が必要です。この自信はどこから生まれるかというと、物事に真剣に取り組んだ経験から生まれます。このため、機械工学科では、ものづくりに対する自信を持てるように、実験・実習・演習を通した実践経験を積みます。いままで真剣に取り組んできた内容を噛みしめて、自信につなげてもらいたいと思います。そして、自分自身のベストパフォーマンスを発揮するために健康であることが重要です。健康であるためには、心の持ち方が特に大切です。それは、目標に向かって真剣に取り組む姿勢です。しっかりとした心を持てるよう、豊かな心にできるよう、様々なことに真剣に挑戦してくれることを期待しております。

（山田　誠：記）

〈電気電子工学科〉

平成26年度の電気電子工学科の卒業生32名のうち27名（84%）が就職しました（道内２割、道外８割）。業種としては、自動車用電子部品、コンピュータ製造、ソフトウェア・ハードウェア開発、航空機整備、医療機器、石油・化学、エレベータ、ガス、造船、電力、家電です。一方、残り５名（16%）が進学しました（本校専攻科２名、筑波大１名、千葉大１名）。

電気電子工学科では卒業後多様な業種にも対応できるように、エネルギー分野（強電）からエレクトロニクス分野（弱電）に至るまで、様々な座学や実験実習が用意されています。電気電子技術は、再生可能エネルギー利用や省エネルギー照明・機器の普及にみられるように、日進月歩です。学生のみなさんには、知る喜びを数多く経験し、同時に人間性や協調性を育み、個性豊かな人材として成長してくれることを期待しております。

（高田　明雄：記）

〈情報工学科〉

情報工学科では、基礎科目とともに、日々進化する情報技術、特にコンピュータ技術、ソフトウェア技術、ネットワーク技術などの専門科目を主に学びます。従って、卒業生の進路も情報技術分野の大学に進学、あるいは企業に就職するケースがほとんどです。平成26年度は、49名全員が卒業し、新たな社会に旅立ちました。進学では、専攻科や豊橋技科大、未来大等に11名（22%）が進み、平成25年度より５%増加しました。就職者は38名（78%）で、道内に10名（函館４名）、関東地方に26名、その他地方に２名と、68%が関東エリアに就職しています。高専で学んだ技術を大学や企業でさらに進化させ、活躍することを期待しています。進路選択においては、様々な大学や企業で活躍している多くの先輩の様子を参考にし、自分の進みたい分野を考えて進路を決めてください。

（藤原　孝洋：記）

〈物質工学科〉

物質工学科では、化学をベースに地球環境や生態系に及ぼす影響を考慮しつつ、半導体、先端機能物質および材料、燃料電池、バイオテクノロジーなどあらゆる産業・環境技術の基礎を担う分野を学びます。そのために、セラミックス材料や高分子材料を扱う「材料・物性コース」と微生物や環境技術などを扱う「生物・環境コース」の２つのコースが設置され、学生は各自の興味に応じてそれぞれのコースを選択することができます。充実した学習環境のもと、教職員と学生が一体となった教育研究活動を進めています。昨年度の卒業生は約３割が専攻科や大学に編入学し、７割が就職しました。

今年度から寺門修先生（リサイクル工学）をお迎えしました。高専で教育した経験もあり、学生目線で種々の対応をしてもらえると期待してます。

（鹿野　弘二：記）

〈環境都市工学科〉

社会基盤工学科の１期生が３年生に、２期生が２年生になり、平成27年度の環境都市工学科は、４年生以上の72名となります。平成７年に改組によって環境都市工学科が発足してから今年でちょうど20年になりますが、これも現在の４年生が卒業するまでの２年間を残すのみとなりました。

環境都市工学科の平成26年度の進路指導の状況は引き続き堅調であり、今回も就職率100%を維持することが出来ました。決定した進路の内訳は、建設業８名(24%)、建設コンサルタント10名(30%)、運輸・エネルギー・インフラなど５名(15%)、公務員３名(９%)、進学７名(21%)、その他１名(３%)となりました。また就職先の地域は、道外46%、道内54%となっております。卒業生のみなさんには、市民の生命と安全を守り、人々が心豊かで快適な生活を送ることができる社会と環境の創造を担うという、土木技術者の使命を強く感じて邁進していただきたいと思います。

（澤村　秀治：記）

春潮寮通信

寮務主事　渡辺（わたなべ）　力（ちから）

入寮式

新入寮生歓迎集会（寮生総代の歓迎挨拶）

学科別親睦会

一斉学習の様子

新年度を迎え、１年生男子37名、１年生女子９名、２年生女子１名、男子留学生３名の新入寮生が加わり、総勢202名（男子寮154名、女子寮38名、留学生10名）で新たな一年がスタートしました。昨年度は入寮希望者が非常に多かったために、女子寮では定員超過の状態となりましたが、今年度は女子寮の居室８室を二人部屋にしたことにより、定員に少し余裕のある状態となりました。昨年度から、冬期間の公共交通機関の乱れなどにより登下校に支障をきたす通学生に対して冬期間短期入寮制度を設けましたが、本年度は女子寮についても何名かを受け入れることが可能となります。

春潮寮では、４月４日の入寮式・寮保護者会総会を皮切りに多くの行事が行われています。４月６日には新入寮生歓迎集会が行われました。１年生は緊張した様子でしたが、しっかりと自己紹介をし、それに対して上級生が拍手で応え、和やかなムードで歓迎集会が行われました。次に、４月７日～14日にかけて、学科別親睦会が行われました。今年度は２、３年生が新学科所属となっておりますので、新学科・旧学科の親睦会に一年生がクラス毎に参加するという形をとりました。上級生と下級生がジンギスカン鍋を囲んで、留学生やフランスからの短期研修生も加わり、先輩と後輩の垣根をこえて、楽しい一時を過ごしていました。さらに、５／14に寮生会定期総会、５／21には防災訓練が行われました。詳しい行事の様子については、寮ホームページをご覧下さい。

春潮寮では、平日（月曜から木曜）の夜９：00～10：30まで１年生の一斉学習を行っています。男子寮では３年生の先輩寮生が学習指導に当たっておりますが、今年度からは女子寮でも寮生会役員と先輩寮生が学習指導を行っています。今年度は、iPad を利用した学習を本格始動させる予定となっています。

春潮寮をより生活しやすい快適な寮とするために、環境改善に取り組んでいきます。寮生諸君や保護者の皆様は、改善要望がありましたら遠慮なくお寄せ下さい。

学校ニュース

4月5日(日)	二輪車実技講習会
4月7日(火) 9日(木)	新入生ガイダンス
4月23日(木)	新入生歓迎会
	構内清掃
	安全運転講習会
4月30日(木)	第1学年レクリエーション
5月14日(木)	交通安全講話・学生総会
5月19日(火)	スポーツ安全講習会

二輪車実技講習会

４月５日（日）午後から二輪構内乗り入れ許可学生と乗り入れ希望学生を対象とした実技講習会が、函館自動車学校で行われました。当日は、４名の学生が受講しました。この講習会は講義と実技の２部で構成され、講義ではビデオ映像を見ながら二輪車特有の事故発生状況やそれを回避するための状況把握や、タイヤの空気圧をはじめとする日ごろの点検について行われました。休憩後は、実際に教習コースに出ての実技講習が行われました。その後校内でシミュレータを用いた講習が行われ、油断が事故を招くことを体験しました。

この日は雨と風が強く二輪には厳しい条件でしたが、講師の先生方の配慮で本校学生のために合羽や長靴・手袋を用意していただき、無事終了することができました。函館自動車学校や当日対応してくださいました講師の皆さんには心より感謝申し上げます。

（学生委員　國分　進：記）

新入生ガイダンス

校長講話

学生主事説明

今年度の新入生ガイダンスが、４月７日(火)と９日(木)の２回に分けて大講義室で開催されました。１日目は、但野茂校長から「高専で工学を学ぶ意義」と題して新入生に対して力強いエールがおくられ、浜克己教務主事からはカリキュラムや単位認定など学習面のルールと注意事項について説明がありました。２日目は、私から学生生活における規則を説明し、また、長澤修一学生相談室長からは、さまざまな悩み相談で学生相談室を利用して欲しいとのお話しがありました。新入生諸君には、一日も早く函館高専での学生生活に慣れ、技術者として必要な知識と技術の習得に加え、人として大きく成長してくれることを期待しています。

（学生主事　本村真治：記）

新入生歓迎会

４月23日（木）午後、新年度最初の学生会行事である新入生歓迎会が開催されました。当日、吹奏楽部の演奏する曲の流れる中、先輩達からの拍手による出迎えを受けて第２体育館に入場する新入生の初々しい姿は、とても印象的でした。

今年度も、応援団からのエールを皮切りに、クラブ・愛好会・外局・学生会の紹介が行われ、各団体は少ない持ち時間の中で趣向を凝らしたパフォーマンスを披露しました。今回は、前日の学生会によるリハーサルがあったこともあり、例年にも増して完成度の高い内容のものが多く、新入生にとっては、脈々と受け継がれてきた函館高専の雰囲気を知るうえでも大変有意義なものであったかと思います。これを機に課外活動にも積極的に参加し、先輩や同級生との絆を深め、充実した高専生活を送ってもらえればと思います。

（学生委員　菅　仁志：記）

構内清掃

４月23日（木）新入生歓迎会終了後に、各クラスの美化・衛生委員を中心に、学生委員の先生方及び教職員のボランティアの方々の協力のもとで構内清掃を実施しました。各自、軍手を装着し、火ばさみを持って、学科ごとに指定された区域で「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「ビン・カン・ペットボトル」「プラスチック」などに分別しながら、汗を流しながら１時間ほど清掃活動を行いました。皆さんが清掃活動を終えたゴミ袋には、たっぷりといろいろなゴミが入っていました。美化・衛生委員たちの皆さんのおかげで綺麗になった学び舎です。学生のみなさんもゴミのポイ捨てなどせず、是非ともこの状態を維持してほしいと思います。

（学生委員　菊池幸恵：記）

安全運転講習会

今年度の春の安全運転講習会が、４月23日（木）本校大講義室で行われました。この講習会には車両（四輪・二輪とも）構内乗り入れ許可者や本年度乗り入れ希望者、運転免許保持者、運転免許取得予定者など100名をこえる学生が参加しました。講師に函館自動車学校学務課長の菊地信也氏をお招きし、「安全運転を妨げる要因」との演題で講演いただきました。はじめに受講者全員に危険判断テストを行い、その後講演に入りました。講演では、特に運転者に与える人体変化による要因のうち、ストレスが与える要因について様々な例をあげて詳しく解説されていました。運転中のストレス原因には、①助手席同乗者が与えるストレス、②他車から受けるストレスなどがあり、これがどのように事故に結びつくかが示されました。また、運転が慣れてくるにつれ危険を感知する感受性が低下し省略してしまうことが事故に結びつく事も、映像を解説しながら説明されていました。

講師の菊地先生は非常に講演上手で、学生が熱心に聞き入っていたことが印象的な講演会でした。

（学生委員　國分　進：記）

第１学年レクリエーション「大縄跳び大会」

４月30日（木）、特別活動の時間を利用して１学年レクリエーション「大縄跳び大会」を開催しました。入学以来まだクラスが馴染んでいないこともあり、クラスの親睦を深めるために企画しました。クラスから３チームが出場してクラス対抗で大縄跳びに挑みました。結果は、全勝で１年２組が優勝しました。

（１年学年主任　浦田　清：記）

交通安全講話・学生総会

交通安全講話

交通安全宣言

学生総会

５月14日（木）の３、４時限目に、本科の学生を対象に交通安全講話と学生総会が行われました。講話では、函館中央警察署の矢吹眞佐文警部を講師にお招きし、「交通安全について－自転車を中心に－」の演題でお話をしていただきました。悲惨な衝突事故の紹介や、交通事故や交通ルールにまつわる質問などを交えながら、事故に遭わない、事故を起こさないための注意点だけでなく、事故後の対応にも話は及び、皆真剣に聴いていました。お話のあと、中島直道学生会長によって、力強い交通安全宣言がなされました。

続いて開かれた学生総会では、平成26年度の決算報告と平成27年度の予算案が審議され、いずれも大きな拍手で承認されました。

（学生委員　四宮宏貴：記）

スポーツ安全講習会

５月19日（火）の放課後、中講義室において、スポーツ安全講習会が開催されました。今年の講習会にも多くの運動系部活・愛好会所属の学生諸君が参加してくれ、真剣なまなざしで講師の先生のお話や実演に、食い入るように見入っていました。講習では、スポーツに限らない一般的な応急処置の最新の考え方や、その応用の仕方についての具体的な説明の後、講師の先生方の指導の下、テーピングを主とした学生達による実地練習が行われました。学生達にとって、理論と実践の両面を備えた大変有意義な内容の講習会ではなかったかと思います。特に私が印象に残ったのは、サッカーの本田選手を始めとする一流のアスリート達も取り入れている応急処置・怪我予防の方法を具体的に教えてもらえたことや、それと同時に、（専門家の間でも）『テーピングの方法に絶対という方法はなく、個々の選手が一番良いと実感できるテーピングが最善のテーピングだ』ということを講師の先生達が何度も繰り返しながら、目的・状況に応じた様々な工夫の仕方を具体的に実演してもらえたことでした。

（学生委員　菅　仁志：記）

見学旅行に参加して

第５学年物質工学科　蝋山虹輝（ろうやまこうき）

私たちは今年の三月に見学旅行に行きました。クラスで行動する機会が今まであまり無かった上、五年に一回の行事なのでかなり前からみんな楽しみにしていました。

初日は自由時間だったため、私は友達と新宿や渋谷を観光しました。自分も含めて東京に来たことがある友達が少なかったため、地下鉄や人の多さに戸惑いながらも東京を楽しみました。企業見学では花王（株）、昭和電工（株）、大日精化工業（株）、（株）日本触媒にお世話になりました。

初日は花王と昭和電工の二社を見学しました。花王では普段から馴染みのある洗剤の製造工程を見学しました。昭和電工ではプラスチックごみのリサイクル工程を見ました。また、ケピアという人形も貰い、後日遊びました。

次の日に大日精化工業と日本触媒を見学しました。大日精化工業では色についての研究や色彩を利用した製品の製造現場の見学、そして昼食が予想より豪華なことに驚きました。日本触媒では無線を使って工場プラントなどの説明を受けました。

二日間の会社見学の後には、自主研修として、ディズニーシーにも行きました。私はこの東京ディズニーシーが一番印象に残っていて、友達とアトラクションや買い物をするためにひたすら歩き回ったことは良い思い出になりました。

四年間という長い時間を過ごしてきたクラスメイトですが、今回の旅行を通じてさらに仲が深まったと感じました。また、非常に多くのことを経験することができ、有意義な旅行になりました。

学校だより　2015.6.29　No.194

見学旅行に参加して

第５学年環境都市工学科　舘山夏鼓（たてやまかこ）

首都圏外郭放水路（地下タンク内で記念写真）

私たち環境都市工学科は、３泊４日の日程で関東方面へ見学旅行に行ってきました。全員が、飛行機ではなくフェリーと深夜バスで半日かけて東京に現地集合するという、滅多に出来ない経験ができ、とても楽しかったです。

見学旅行１日目は東京タワーに登り（男子は階段で）、浅草を散策後、水上バスに乗りました。水上バスからは隅田川に架かるたくさんの個性的な橋を見学することができました。この日の夜は月島で、本場のもんじゃ焼きを食べました。とても美味しくてあの味は忘れられません。

２日目からは本格的な施設見学が始まり、関東地方を洪水から守る首都圏外郭放水路、筑波学園都市ではショッピングモールの環境対策と国土交通省国土技術政策総合研究所を見学しました。私が一番印象に残っている首都圏外郭放水路は、世界最大級の地下放水路ということで、そのスケールに圧倒されました。

自由行動の夕食は、本場のもんじゃ焼き

３日目は東京港トンネルの建設現場、橋梁メーカーである駒井ハルテックの工場を見学しました。東京港トンネルでは、供用前の海底トンネルの全区間を徒歩で見学するという、貴重な体験をさせていただきました。この日の昼食は海ほたるで取りました。短い時間

で残念でしたが、とてもきれいな景色を見ることができ感動しました。４日目は千住関屋ポンプ場の建設現場、渋谷駅前の再開発事業の建設現場を見学しました。どちらの現場も都市部で行われる規模の大きな工事で、とても興味深いものでした。
　クラスの皆との楽しい思い出がたくさんでき、とても良い旅行になりました。

東京港トンネル建設現場での説明

クラブ紹介

クイズ研究会

第４学年情報工学科　東（あずま）　寛登（ひろと）

　今年で設立３年目となります。クイズ研究会です。クイズ研究会は現在約10人で活動しています。設立１年目から２年目までは HR で活動しており、現在はオンラインでの活動がメインとなります。クイズ研究会では問題の作成（作問）や早押しクイズ、筆記クイズ、ペーパークイズ、過去に放送されたクイズ番組の再現など様々な活動をしてきました。３年前までの高校生クイズなどを見たことがある方は何を言っているのかわからない問題などが出題されていたと思います。クイズ研究会ではそれら難問も取り扱いますが、だれでも楽しめるクイズを目指しています。部員それぞれに得意不得意の分野があるので、暗記が得意な部員は高校生クイズで出題されているような難問を中心とするいわゆる競技クイズを、暗記が苦手だけれどクイズを楽しみたいという部員は一般常識を中心とした初心者同士でも競い合えるクイズを作成したり答えあったりしています。土日に活動していくと思いますので部員以外で興味のある方は hnctquiz@gmail.com まで気軽に連絡をください。

ソフトテニス愛好会

第３学年社会基盤工学科　小笠原（おがさわら）　聖（ひじり）

　私たちソフトテニス愛好会はおもに三年生と二年生と一年生で行っています。
　活動は硬式テニスの横の新しく作ったコートで行っており、基本毎日活動しています。
　今年度から、大会にも参加し活動を積極的にしていこうと思っているので入部希望の人がいれば３年社会基盤工学科小笠原または３年機械工学科砂原までおねがいします！

クラブ紹介

女子サッカー愛好会

第３学年生産システム工学科 情報コース　西村（にしむら）みさき

サッカー愛好会です。活動内容は、サッカーをするだけです。部員は、今のところ二年生と三年生だけです。ほとんど未経験者です。みんな兼部してます。

しかもバレー部だったり水泳部だったり、サッカーとは、関係のない部活です。しかし、楽しくサッカーすることが目的なので、全然問題ありません！

未経験者大歓迎です！ボールをうまくけれなくても、パスがきたら、絶対とるぞ！触るぞ！みんなこの気持ちなので、どんな変なパスをだしてもみんなとってくれます。みんなのやる気だけはどのチームにも負けません！サッカー興味のある方、適度な運動（ダイエット）をしたい方、かっこいい女子になりたい方、なでしこに魅せられた方ぜひ入部してください。入ったことに後悔しないくらい、みんなサッカーを好きになっちゃいます！嘘だと思ったら、まずは見学からです。気になる方がいたら、とりあえず３ＳＪまで来てください!!

料　理　部

第３学年生産システム工学科 電気電子コース　近藤（こんどう）　駿（しゅん）

料理部です。今回は料理部の紹介をさせていただきます。この部活は去年の夏頃に結成された部活でまだ正式に部として認められていません。ですが、約25名の学生が所属していてとてもアクティブに活動しています。顧問は山本先生、三島先生、剱地先生にお願いしています。実はこの部活の発足者は山本先生で、僕は料理部の話を聞いて便乗した形になります。それだけの僕が部長になったのも不思議な話です。

軽く概要について知っていただいたところで、今まで料理部がどのようなものを作ってきたか紹介したいと思います。初めての活動は高専祭でクッキーを作って販売することでした。何日か前から生地の作成を始め、前日に丸く切ってオーブンで焼くだけの簡単なものでしたが、今思えばみんな初めての活動だったにも関わらず、互いに協力しあい活動できたと思います。誰も予想出来なかったでしょう、高専祭の一日目、あまりの人気に２時間で売り切れてしまいました。こうなるのであればもっと沢山作っておけばと後悔しました。その他には餃子や炊き込みご飯を作りました。まだ結成して間もない部活ですが、正式な部として認められるようがんばります。

平成27年4月入学　外国人留学生

①名前：ムハッマド　ザイムヒルミ　ビン　ミスナン（通称：ザイム）
②学年・学科：第３学年　物質環境工学科
③出身国：マレーシア
④趣味：釣りをすること
⑤一言：宗教、人種や国のために頑張ります！

①名前：マルフィン　ハリヤント（通称：マルフィン）
②学年・学科：第３学年　物質環境工学科
③出身国：インドネシア
④趣味：アニメや漫画など、読書、ゲーム（艦これ）、寝ること
⑤一言：うちの国には先輩後輩の関係はあまり厳しくないので、遠慮なく声をかけてください。留学生は皆日本語話せるから。これからよろしく頼むぜ。

①名前：オトゴンバト ムンフスフ（通称：ムギ）
②学年・学科：第３学年　社会基盤工学科
③出身国：モンゴル
④趣味：映画を見ることや音楽を聞くことやスポーツをすることが好きです。
⑤一言：これから３年間自分の夢に向かってしっかり勉強をしようと思います。知らないことがたくさんあるので高専の皆さんどうぞよろしくお願いします。

平成27年4月入学　編入学生

①氏名：小林（こばやし）　雄基（ゆうき）
②学年・学科：第４学年　電気電子工学科
③出身高校：函館工業高等学校
④趣味：バスケットボール、ドライブです。
⑤一言：とても大変です。ですが、とても有意義な時間を過ごせています。なので編入してよかったと思っています。

①氏名：佐久間（さくま）　正太（しょうた）
②学年・学科：第４学年　情報工学科
③出身高校：函館工業高等学校
④趣味：筋トレ、ランニング
⑤一言：函館高専に入学して環境がガラリと変わり、授業についていくので精一杯ですがここでの生活に充実感を感じています。２年間よろしくおねがいします。

人　事　異　動

〔教　員〕

●昇　任　平成27年３月１日

職　名	氏　名	前　職
教授生産システム工学科	近　藤　　司	准教授生産システム工学科
教授生産システム工学科	三　島　裕　樹	准教授生産システム工学科
教授生産システム工学科	柳　谷　俊　一	准教授生産システム工学科
准教授生産システム工学科	劔　地　利　昭	助教生産システム工学科
准教授生産システム工学科	三　栗　祐　己	助教生産システム工学科

●定年退職　平成27年３月31日

職　名	氏　名
校長	岩　熊　敏　夫
教授（一般科目理数系）	佐　藤　博　保
教授生産システム工学科	祐　延　　悟

●辞　職　平成27年３月31日

職　名	氏　名
助教（一般科目理数系）	城　谷　　大

●転　出　平成27年４月１日～平成28年３月31日

職　名	氏　名	転　出　先
准教授生産システム工学科	河　合　博　之	釧路工業高等専門学校准教授情報工学科

●転　出　平成27年４月１日

職　名	氏　名	転　出　先
教授（一般科目理数系）	佐々木　　淳	北海道浜頓別高等学校長
准教授生産システム工学科	井　口　　傑	旭川工業高等専門学校准教授電気情報工学科

●採　用　平成27年４月１日

職　名	氏　名
准教授物質環境工学科	寺　門　　修
特命准教授（一般科目理数系）	関　川　準之助

●転　入　平成27年４月１日

職　名	氏　名	前　職
校長	佃　野　　茂	北海道大学大学院工学研究院教授
教授（一般科目人文系）	菅　原　雅　之	北海道伊達高等学校教頭
助教生産システム工学科	川　合　政　人	一関工業高等専門学校助教制御情報工学科

●併　任（再任）　平成27年４月１日

職　名	氏　名
教務主事・副校長	濵　　克　己
学生主事・副校長	本　村　真　治
専攻科長・副校長	鹿　野　弘　二

●併　任　平成27年４月１日

職　名	氏　名
副校長	小　林　淳　哉
機構本部事務局教育研究調査室准教授	下　郡　啓　夫

●昇　任　平成27年４月１日

職　名	氏　名	前　職
教授生産システム工学科	丸　山　珠　美	准教授生産システム工学科
准教授社会基盤工学科	菊　池　幸　恵	助教社会基盤工学科

〔事務・技術職員・技術教育支援センター職員等〕

●採　用　平成27年３月１日

職　名	氏　名
総務課財務事務グループ技術職員	岡　本　雅　史

●定年退職　平成27年３月31日

職　名	氏　名
事務部長	今　田　敏　文

●雇用期間満了　平成27年３月31日

職　名	氏　名
学生課事務補佐員	嶋　田　真　一
総務課事務補佐員	荒　井　弓　子
総務課事務補佐員	石　田　彩　香

●転　出　平成27年３月31日

職　名	氏　名	転　出　先
総務課用度係長	吉　川　貴　規	北海道教育大学事務局旭川校室係長
総務課財務事務グループ一般職員	富　田　雄　喜	機構本部事務局財務課財務システム係

●転　入　平成27年４月１日

職　名	氏　名	前　職
事務部長	竹　見　吉　弘	北海道大学病院総務課長
総務課財務事務グループ一般職員	竹　越　　亮	北海道教育大学事務局情報化推進室

●併　任　平成27年４月１日

職　名	氏　名
総務課研究協力係長	柄　澤　　太

●昇　任　平成27年４月１日

職　名	氏　名	前　職
総務課総務事務グループ主任	五十嵐　麻里子	総務課総務事務グループ一般職員

●採　用　平成27年４月１日

職　名	氏　名
技術教育支援センター技術職員	樋　口　剛　康

●採　用　平成27年５月11日

職　名	氏　名
研究支援員	金　子　真　弓

名誉教授称号授与

平成27年３月31日付けで定年退職された前校長　岩熊　敏夫氏、一般科目理数系教授　佐藤博保氏、生産システム工学科教授　祐延　悟氏に対し、４月１日付けで本校名誉教授の称号が授与されました。

新任教員紹介

一般科目人文系　教授　菅原雅之（すがわらまさゆき）

北海道教育委員会との人事交流により赴任しました菅原雅之です。３月までは道立高校の教頭をしておりました。現在、３年生の「現代社会」(一般科目）を担当しており、久しぶりに緊張感を持って教壇に立ち、学生諸君の前向きな授業態度に感心しつつ、彼らから若いエネルギーをもらっております。

これまでは、高校教員を17年間、教育委員会指導主事を10年間、道立高校教頭を２年間と工業高等専門学校とは接点がない職場に居りましたので、分からないことばかりです。しかし、分からないことが多い代わりに、常に新鮮な気持ちで仕事をさせていただいており感謝に堪えません。

さて、学生諸君。現代は、多様で変化の激しい社会です。そこでは個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力を身に付け、知識基盤社会を生き抜く知恵が求められます。学生諸君が学んでいる専門知識はこれからの時代に大いに多いに役立ち、他の専門技術等と結びつくことで諸君の将来は無限の可能性を持つことになります。工業系の専門知識・技術を全く持たない私からすると、誠に羨ましい限りです。皆さんの奮闘を手本として仕事に励みたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

物質環境工学科　准教授　寺門修（てらかどおさむ）

本年４月より物質環境工学科に着任しました寺門です。私は、札幌の大学で修士課程を修了してから、ドイツ、仙台、名古屋と大学を転々としながら、リサイクル工学や材料工学、とくに、電子基板や電池などに含まれるレアメタル・プラスチックリサイクルに関する研究を行ってきました。以前、豊田高専で非常勤講師を務めたことがあり、コンパクトながら設備も整っている高専に大変共感を覚えていたところに、今回ご縁ができて、美しい函館の街で働くことができ、大変光栄に思っております。

リサイクルは地域環境に依存する要素が高いため、函館の地で、学生さんと一緒に、教育・研究に微力ながら貢献をしたいと、赴任いたしました。着任して２か月半余り、講義準備は自転車操業で、皆様には迷惑をかけ続けて大変恐縮しております。前途多難でありますが、挨拶のきちんとできる学生さん、暖かくサポートしていただいている教職員の皆様に少しでも恩返しできるよう、努めたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

一般科目理数系　特命准教授　関川準之助（せきかわじゅんのすけ）

４月からご縁があって一般科目理数系教員として着任しました。３年生の「物理Ⅱ」の授業を担当します。市内の北海道立函館中部高等学校で理科（物理）教員を19年務め、この３月に定年退職をしたばかりです。本来ならば送別会の後は仕事がなくなって寂しい思いをするところですが、環境の異なる新しい職場で仕事が出来る幸せを感謝しながら、毎日フレッシュな気持ちで通勤しています。

中部でも主に理系の生徒を相手に授業していたので、授業の感触はほとんど変わりませんが、学生実験をしたときにどの学生も実験やデータ処理に熱心に取り組む姿には感心しました。これは普段から専門教科で実験やレポート提出を厳しく指導されているからに違いありません。また、新入生歓迎会で「応援団」が登場したのにも感激しました。やはり、「応援団」がいると行事が締まりますね。何とか伝統をつないでいってほしいものです。

これから自分の持ち場で全力を尽くします。よろしくお願いします。

生産システム工学科　助教　川合政人（かわい　まさと）

生産システム工学科に着任しました川合政人です。私は十数年前に函館高専機械工学科を卒業し、運輸省（現国土交通省）東京航空局の函館空港事務所、新千歳空港事務所で２年間機械設備の維持管理業務を担当した後、函館高専に戻り機械工学科担当の技術職員として12年間勤務しました。技術職員時代に、公立はこだて未来大学大学院博士（前期）課程にて、機械学習のディーゼルエンジン制御への適用に関する研究で修士号を取得しました。平成26年４月より一関高専制御情報工学科で１年間勤務させて頂き、この４月より函館高専に着任しました。

専門は機械設計、CAD、熱機関（エンジン）です。研究テーマとしては、ガスハイドレート（メタンハイドレートが有名ですが、私の研究では CO_2 ハイドレート）を利用した発電装置の開発やスターリングエンジンの小型化に取り組んでいます。校務関係では、寮務委員を務めさせて頂きます。どうぞ宜しくお願い致します。

新任事務職員紹介

氏名：**竹　見　吉　弘**（たけみ　よしひろ）
①採用・転入年月日：平成27年４月１日
②職名（所属）：事務部長
③前　職　等：北海道大学病院総務課長
④趣　　味：野球観戦
⑤一言（抱負）：この４月から、事務部長として勤務させていただくこととなりました。以前、旭川高専に２度お世話になったことがあり、高専勤務は３度目となります。また、函館での勤務も北大水産学部でお世話になって以来２度目となります。この度、函館で、しかも高専で勤務できることに非常に懐かしさを感じています。しかし、以前と比べて、高専の変化は大きく、幾つになっても勉強しなければならないことがたくさんありますので、気を引き締めて、新たな気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っています。一日も早く、本校の教育研究に貢献出来るよう尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

氏名：**竹　越　　亮**（たけこし　りょう）
①採用・転入年月日：平成27年４月１日
②職名（所属）：総務課財務事務グループ一般職員
③前　職　等：北海道教育大学事務局情報化推進室
④趣　　味：サッカーをすること・体を動かすこと・ドライブ
⑤一言（抱負）：この４月より北海道教育大学事務局より赴任いたしました竹越です。会計職員なので、学生とふれあう機会は少ないですが、陰ながら応援しております！みなさまのお役に立てるよう、精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新任技術職員紹介

氏名：**岡　本　雅　史**（おかもと　まさふみ）
① 採用・転入年月日：平成27年３月１日
②職名（所属）：総務課財務事務グループ技術職員
③趣　　味：自転車
④一言（抱負）：総務課財務事務グループに配属となりました岡本です。以前は、東京で羽田空港などの空港に関する工事の仕事をしていました。今後は、主に施設の整備や修繕を担当させていただくことになるかと思います。これからよろしくお願いいたします。

氏名：**樋　口　剛　康**（ひぐち　たかやす）
①採用・転入年月日：平成27年４月１日
②職名（所属）：技術教育支援センター技術職員
③趣　　味：旅行、スキー
④一言（抱負）：函館高専の機械工学科（31期）を卒業後、大学編入を経て、派遣のエンジニアとして６社で16年間、機械設計を中心に行ってきました。その間、東は群馬県から西は広島県、製品分野も自動車部品や金庫扉など、広い範囲の知識を吸収することができました。この経験を活かして授業の内外から、実際の設計環境や、現場が求めているエンジニア像などを、学生たちに伝えることができたらと思っております。

新任研究支援員紹介

氏名：**金　子　真　弓**（かねこ　まゆみ）
①採用・転入年月日：平成27年５月11日
②職名（所属）：研究支援員
③趣　　味：水泳、キャンプ、愛犬（ゴールデンレトリバー）と遊ぶこと
④一言（抱負）：文系出身ですが、今回ご縁がありましてこちらでお世話になる事になりました。校内が広く、自分が勤める研究室に毎朝たどり着くことができるだろうか…という不安から第１日目が始まりました。
　忙しい先生の力になれるよう、頑張りますのでよろしくお願いします。高専から徒歩５分の場所に住んでおりますので、ゴールデンレトリバーを連れ、かなりの頻度で学校周辺に出没します。見かけましたら、声をかけて下さい。

平成26年度　表彰学生一覧

●有効賞（個人）

（課外活動及び各種行事開催において努力・貢献した者並びに成果が認められる者。学外において特筆すべき活動をした者。新聞雑誌等の取材を受け、広報的な意味で本校に大きく貢献した者。）

学年・学科	氏　名	表　彰　理　由
第３学年 生産システム工学科 機械コース	澤田奨汰（さわだしょうた）	陸上競技部の課外活動において、第49回全国高専体育大会陸上競技男子走高跳４位入賞、第30回北海道高等学校新人陸上競技大会優勝、第８回日本ユース陸上競技選手権大会男子走高跳３位入賞し、平成26年度日本陸上競技連盟ジュニア推薦選手にも指定された。
第３学年 物質環境工学科	上田有梨那（うえだゆりな）	第49回全国高等専門学校体育大会水泳競技大会において、女子50m バタフライで大会新記録で優勝し、また女子50m 背泳ぎでともに全国第２位の好成績を挙げた。これにより、函館市スポーツ賞、函館市体育協会スポーツ競技者賞を受賞し、校名発揚に多大な貢献をした。
第５学年 環境都市工学科	山田春奈（やまだはるな）	バドミントン部において、北海道地区大会で４年間優秀な成績を収めている（シングル：１～３学年優勝、４学年準優勝　ダブルス：４年連続優勝　団体戦：優勝（４学年））。平成26年度の全国大会においては、ダブルス第３位、団体戦第３位となり主将として全国でも活躍した。

（※学年は平成27年度で掲載）

●躍進賞

（第３学年及び第５学年進級時の成績が、前年度学年末成績より大きく向上した者。）

学　年　・　学　科	氏　名
第3学年　生産システム工学科機械コース	砂原瑠生（すなはらるい）
第3学年　生産システム工学科電気電子コース	武田修幸（たけだのぶゆき）
第3学年　生産システム工学科情報コース	織田智矢（おだともや）
第3学年　物質環境工学科	濱田宝風（はまだほうぶ）
第3学年　社会基盤工学科	外崎稜也（そとざきりょうや）

学　年　・　学　科	氏　名
第5学年　機械工学科	大髙信仁（おおたかのぶひと）
第5学年　電気電子工学科	佐々木慎之介（ささきしんのすけ）
第5学年　情報工学科	鈴木涼（すずきりょう）
第5学年　物質工学科	寺崎ありさ（てらさき）
第5学年　環境都市工学科	紺谷侑樹（こんやゆうき）

（※学年は平成27年度で掲載）

平成26年度　英検等合格者数一覧

第１回英検合格者（H26.6.8実施）

	1年	2年	3年	4年	5年	合計
２級			1			1
準2級			3	1		4
３級	1					1
合計	1	0	4	1	0	6

第２回英検合格者（H26.10.12実施）

	1年	2年	3年	4年	5年	合計
２級			3			3
準2級		1	6			7
３級						0
合計	0	1	9	0	0	10

第３回英検合格者（H27.1.25実施）

	1年	2年	3年	4年	5年	合計
２級		3	4			7
準2級	1	4	2			7
３級						0
合計	1	7	6	0	0	14

第101回工業英検合格者（H26.11.16実施）

	1年	2年	3年	4年	5年	合計
３級				9		9
４級						0
合計	0	0	0	9	0	9

新入生歓迎会

応　援　団

吹奏楽部

軽音楽部

ロボット研究会

ダンス愛好会

アーチェリー部

編集後記

３月の春休み中に「海外研修Ⅰ」の授業で、生産システムの２年生と共にシンガポールポリテクニック（高等技術専門学校）に10日間ほど行ってきました。

国際色豊かな学校とその最新鋭の設備のすばらしさに圧倒され、アジア経済の要として急成長しているシンガポールの勢いを感じました。本校の学生たちもシンガポールの学生たちと交流しているなかで、グローバル的視野を持つことの大切さ、コミュニケーションツールとしての英語の必要性を痛感したようです。ここ数年、本校でも留学だけではなく海外でのインターンシップを希望し、実践した学生も見られるようになりました。

これからは、世界的に活躍する技術者をめざし、留学や海外での就職を希望する学生がますます増えて行くのだろうなと感じている今日この頃です。　　（一般科目人文系　高橋　眞規子：記）

学校だより　No.194

発行　函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501　函館市戸倉町14番１号
ＴＥＬ　０１３８－５９－６３３４
ＦＡＸ　０１３８－５９－６３３０